

憲法改正

昨年(2015)年は戦後 70 年と言われ、これに関する情報もたくさん流れています。私は 1943 年生まれの 73 歳ですから、ほぼ戦後 70 年を生きたと同じになります。この間私は、生まれ、育ち、会社に勤めて、家庭も子孫も作って、現在は年金生活をしています。定年近くに癌の手術も受けましたが、現状異常はありません。このように何不自由なしに平和に過ごしてきたため現状に満足しており、世の中はこのままで良いと思っていました。

現役時代に読む本は技術書や経営書のような、仕事に関係するものばかりでした。当然そこから得られる知識は仕事に生かし、やがて生活の糧として戻ってきました。新聞は日本経済新聞、雑誌なども学会誌が主でした。定年退職後は健康本や人生に関する本(宗教書、哲学書)、未知の問題(宇宙、素粒子物理等)、それからテニスや写真、旅行などの趣味の分野の本に広がっていきました。

歴史に関することは興味が無いわけではありませんが、精々TV の歴史ドラマを見て、すごい先人が居たのだと感心する程度でした。私が初めて、本当の史実に触れたのは、定年退職後ベテランテニス愛好会(JVTS:茨城県ひたちなか市)に参加し、その会のオーナーである中島正周さんにお会いした時でした。

初めてお会いした時、中島さんは[外地生まれだとバカにされるから、内地に戻ろうとする途中台湾近くの船の上で生まれた]といいました。このとき私は今の日本以外に日本という国は広がったことを実感として知りました。中島さんは軍人で第十六軍参謀部通訳でしたが戦後もインドネシアにとどまり、PETA(郷土防衛義勇軍)の教官を務めました(1)。独立後のインドネシアの近代化のために現地の建設会社に勤め、退職後、ひたちなか市に居を定め、テニス普及のために、自宅にコートを作りました。ここを拠点にインドネシアとのテニス交流会を毎年行ってきました。交流会に参加した人は、現地ではVIP(国賓)扱いを受けると言います。インドネシアの独立記念日には招待されていました。それ程中島さんはインドネシアに貢献した人でした。中島さんは 2009 年に天国に召され、この時に JVTS として偲ぶ会を開催し、小生は「思い出のスライド」担当となりました。この準備のため奥様から見せていただいた資料やアルバムなどを通して一層深い事実を知りました。

中島さんを通して、現代史の 1 コマを知りましたが、その頃渡部昇一さんの「パル判決書の真実」という本を読み、衝撃を受けました(2)。この時の感想は私のホームページ(柳緑花紅 <http://www015.upp.so-net.ne.jp/h-hirose>)に載せました。これを読むと、その時の自分の感想を素直に表現しています。そして現在読み返しても違和感はありません。但し国際問題のむずかしさがあり、さらに勉強したいと書いてあります。

さて、戦後 70 年と関連していろいろの重要な動きがありました。安倍首相の戦後 70 年談話の発表、国政では保守勢力が多数を占めたこと、これにより安保法制の成立による集団的自衛権の一部行使可が可能になるなどの大きな動きもありました。国会では憲法審査会が再開されましたが改正のとらえ方や重視する論点などはバラバラです。

このような状況下、ジャーナリズムの世界でも、保守とリベラルの戦いが激しくなり、従来以上にその溝が深まってきています(3)。

私もこのような状況下で、購読する本は日本の国益と主権を重視するものが多くなりました。このような意識の元で本を選択すると、日本の主権や国益を重視し、外国に対して、もっとはっきり発信すべきだと主張する著者に外国人または外国籍から日本籍に変えた人が多いことに気が付きました(4)(5)(6)。これはとても不思議なことでした。大多数の日本人は東京裁判史観、その他占領時の諸政策によって、回復できないほどに洗脳されてしまっていることです。日本にエールを送ってくれる、著者は洗脳されていないために、正しい考えを発信することが出来るのだと思います。

太平洋戦争時の機密資料が公開(7)(8)される時期になって、次々に新事実が明確になる中でさえ、日本人の多くは、これまでの私のように、無責任な平和を望んでいるようです。このために、重大政策を選挙などで決めようとする、政府は思ったようには推進できません。領土問題、拉致問題、沖縄の基地問題、原子力の問題、憲法改正の問題など、動き始めた問題でも容易にゴールには届かないと思います。国防やエネルギー問題などは、国際問題でもあり、地方の権限を小さくしないといけなと思います。しかしながら日本は法治国家ですから法律(憲法)を変えない限り前に進むことはできないでしょう。しかし、憲法等を無理に変えようすると、当選できなくなるというジレンマがあります。では、どうすべきか、政府としては、じっくり、説明する地道な活動をつづけ、国民の大多数の支持が得られるのを待つしか方法は無いでしょう。

このために日本には数々の国益と主権を重んじる(憲法改正推進)組織が生まれています。これらの組織の活動とこれの発信する情報によって国民の意識を改憲メジャーにするしかありません。私はこれらの組織では櫻井よしこさんの国家基本問題研究所の会員となりました。WEB で会員を募っていたのでこれに入りました。また、雑誌では月間「Hanada」と「選択」を購読しています。またフーバー研究所 西鋭夫教授の情報を PRiDE and HISTORY から得ています。

このような活動は正しい知識を得ることに加え、これらの活動団体の支援(微々たるものだが)をするためです。リベラル勢力(外国も含む)はこれまでと同様に巧みな諜報活動と情報操作(情報戦争)を仕掛けてくるでしょう。永く我慢強い戦いになるはずですが。このためにも、気が付いた(目覚めた)国民は選挙のときだけでなく、国民の意識改革の活動に参加してほしいと思います。

このように自分の意識が変わった中で 2 冊の本に出会いました。それは「カエルの楽園」(9)と「カエルの楽園が地獄と化す日」(10)です。この 2 冊の本は私にとって渡部昇一さんの「パル判決書の真実」以来の強い衝撃を受けました。日本は大東亜戦争に負けて領土と日本魂を奪われましたが、これがまだ続いているのです。日本の国益と主権は危ういものとなっています。私たちは何としても日本国憲法を改定して日本を守る軍隊を認め、日本

魂のこもった主権国家にする必要があります。アメリカから押しつれられた憲法だから改定するのではなく、主権国家として国を守るために改定することを明言しましょう。この事こそが、祖国の未来を思って戦死していった多くの先輩に報いるものであり、自分がこの世に生きた意味でもあると思うのです。

国が領土拡張や覇権を求めたりすることは、有史以来永く続けられている歴史であり、どんなに文明が発達しても、戦争、テロ、殺戮、などはゼロにすることは不可能だと思います。現実を見てください。戦争、テロ、殺人、領土拡張、人種差別、保護貿易(経済戦争)通貨戦争、情報戦争、諜報活動等限りなくあります。このことを考えて、憲法9条、戦争、靖国神社、などの言葉に敏感に反応してかみつ়方々はよく考えていただきたい。永い歴史の上に立って現在の世界をみてよく考えていただきたい。永遠に続いた二国間同盟などありません。昨日まで同盟関係にあった国と戦争をしたケースも多くありました。戦争をするのは軍隊を持っているからではありません。自衛隊を日本国軍として認め、堂々と本土防衛が出来る国にしましょう。国連があっても戦争や侵略、殺戮等は無くなりませんでした。歴史を見てください。

他国のシステムをみてよく考えていただきたい。世界主要国の中で個別的自衛権でさえ十分発揮できない国は日本だけです。このままの主張をつづけながらやがて死んでいくことが良いのかどうか考えていただきたい。このまま沈黙したまま人生を全うするのがよいのか考えてほしい。

政府は国際関係や歴代政府の継承性などもあって、政策を一気に変えることは難しいこともありますが、個人は自由です。ぜひ日本の真の主権回復と日本精神のこもった憲法改定を訴えながら人生を全うしましょう。

2016年11月25日 廣瀬博(73歳)

参考文献

- 1)中島正周、インドネシアとともに「昭和」を歩んで、別冊正論 Extra11 遙かなる昭和 270p-275P(2009年7月)
- 2)渡部昇一、パル判決書の真実、PHP研究所(2008年9月)
- 3)モデレーター:一色清、姜尚中、「戦後80年」はあるのか・「本と新聞の大学」講義録、集英社新書(2016年)
- 4)マックス・フォン・シュラー、「太平洋戦争」アメリカに嵌められた日本、WAC(2015)
- 5)ケント・ギルバート、やっとう虐史観のアホらしさに気づいた日本人 PHP(2016)
- 6)インドネシアの人々が証言する日本軍政の真実、大東亜戦争は侵略戦争では無かった、桜の花出版(2006年初版)
- 7)西鋭夫、國破れてマッカーサー、中公文庫(2005年初版)
- 8)ヘレン・ミアーズ、アメリカの鏡・日本 完全版 (2015年初版)
- 9)百田尚樹、カエルの楽園、新潮社(2016年)

10)百田尚樹、石平:カエルの楽園が地獄と化す日、飛鳥新社(2016 年)

11)上杉聰著:日本会議とは何か、合同出版(2016 年)